

西欧中世の証書系史料 ―問題関心の変容と研究の展望―

岡崎敦

はじめに

文書史料の二大類型のなかでも、いわゆる証書系史料は、文書形式学の古典的な、あるいは時期によっては、ほとんど排他的な研究対象であった。多くは単葉の用紙に、法行為、あるいは法的事実が記載されたもので、法廷において明確な立証能力を持つべく作成、保管されたものが念頭に置かれている。事実上オリジナルのみが究極の価値を有すると観念されるため、多様なコピーは、研究あるいは史料刊行上、伝来しないオリジナルの代替物としての価値しか、基本的には認められていなかった。

このような研究のあり方自体が、特定の歴史状況に強く規定されていたことが認識されるとともに、多様な歴史現象をより豊かに考察するための方法論も深化している現在、あらためて、研究の現状を概観することは無意味ではないとも思える。管理・業務系資料の再評価こそが最近のもっとも注目すべき動向であり、証書系資料とも共通する諸論点が提起されているとはいえ、ここでは、証書系資料をもっぱら念頭において、研究の現状を、やや理論的な観点から整理することとしたい

以下、まず基本的な問題を確認したのち、最近の注目すべき研究動向論文を紹介しながら、史料が経験する諸段階ごとに、重要な論点をまとめたい。

1. 問題関心の変容

マビヨン以来の文書形式学は、事実上、12世紀以前の証書系史料の百科全書的な知識の集積と、主として形式批判を通じての偽文書の同定を目標としていたと考えることができる。さらに、19世紀を通じての国家法制史との癒着は、文書行政史への関心の高まりとともに、文書の定式性を法的性格と連動させながら、各文書を分類・評価する傾向を強めた。これに対して、20世紀にはいると、時期、地域、類型、発給者などの諸面において、視野と対象の拡大が顕著に見られるとともに、史料をめぐるコンテクストへの関心が高まった。とりわけ、文書の機能や伝来に関する諸問題が議論の前面に現れるに至ったことが重要である。

なかでも、伝来と受容に関わる問題系は、コペルニクスの転回ともいえるべき、問題関心の刷新を将来したと考えられる。この背景にあるのは、記憶や実践、我がものとする利用など、歴史学、さらには学問全般に関わる関心の変容であるが、いまや、伝来研究は、かつての史料批判の枠を大きく越えて、「受容」研究全般へと変質しているといえよう。さらに重要なのは、この動きが、史料証言の意味と価値をめぐる省察をうながしたことである。歴史家が過去の痕跡として認識するモノや情報は、その生成から現在までの伝来のすべての過程において、「現実なるもの」が透明な媒体で直接表現されたものではなく、特

定の状況に規定された諸解釈の積み重なりとしてとらえられるようになった。最後に、文書史料類型自体もまた、いまや観念的な法的性格や個々の形式によってであるよりは（それ自体、ある種のフィクション＝参照枠として研究の対象となりうる）、むしろアーカイヴズとして形成される群と観念されるに至っている。

しかしながら、このような伝来と受容への関心の高まりは、単に文書の後世での利用という次元だけではなく、文書の生成から消滅に至るすべての段階について、共通する諸問題を提起しているように見える。文書のコンテキスト化こそがキーワードであり、この意味で、2005年に開かれた文書形式学評議会研究集会における2人のシャルティストの報告はとりわけ注目に値する。以下では、2007年に『文書形式学雑誌』 *Archiv für Diplomatik* 上に発表された、この「伝来と受容」と題する動向論文を敷衍するかたちで、関係の問題を検討したい。

2. 文書の諸段階

文書の一生を時間軸にそって分類するなら、生成、利用、保存・管理（さらには消滅）の3段階を想定することができる。これらは、史料の「かたち」という観点から見れば、それぞれオリジナル、コピーや編纂物、アーカイヴズに対応すると考えられる。以下、時間軸にそって検討しよう。

オリジナルの生成段階に関しては、まず、それ自体が複数の諸段階を包含することに注意せねばならない。なんらかのテキストが紡がれるためには、先行する諸テキストの参照が必然であり、とりわけ文書においては、それが「妥当なやりかた」（＝受容されうる形式）で確保されることが本質的な意味を有する。ここでは、文書類型や形式についてのなんらかの知識の獲得と維持が問題となるが、最近では、アラス司法文書局研究を嚆矢とするトックの一連の研究が、形式や書式の選択についての徹底的な検証という意味で、一つの究極的な姿を呈している。

他方で、近年、従来やや自明視されていたオリジナル概念についての再考の動きがある。ここでは、文書の性格に関する伝統的な二つの区別は不十分であり（法行為形成 *dispositif* と法行為告知 *probatoire*）、特定の環境のもとで、文書が果たした意味自体を考察せねばならない。この点で重要なのは、すべてを広義の力関係に解消しかねない危険性を有していた当初の紛争解決系研究を批判的に乗り越える一助として、あらためて文書のオリジナル概念を問うたモレルの研究である。さらに、文書の価値問題は、有効性保証のための記号や道具、具体的な取り扱い（儀礼における役割、運搬と展示など）などの諸問題と大きく関わるほか、やや広い展望から見れば、西欧社会における法規範の領域化や諸審級の制度化の進行などの動きになかに位置づける必要がある。

オリジナルについては、そのほか、これに関係する人間たちのあり方（生産する者、見る者、受領する者、保管する者、崇敬する者など）、具体的形式や形態（複数オリジナル、キログラフ、更新・修正文書、パンカルト、*vidimus* など）の研究が重要である。なかで

も、モノとしての文書についての関心の高まりは、古典的な史料学を越える射程を有している。リユク率いる共同研究はその代表的存在であるが、フランスでも、ナンシー大学中世テキスト研究所が蒐集したオリジナル文書画像データベース、およびその主導者パリッスやトックたちの諸研究がある。

コピー・編纂の段階で問題の焦点となるのは、当然ながら、意志的な行為を行った時期や場であり、これらはしばしばオリジナルの生み出した諸条件とは時期的、空間的に隔たっている。ここでは、基本的な検討課題として、転写の「忠実度」（語彙、綴り、言語、文体、文章、形式、レイアウト、記号的要素、モノの要素など）、さらには形態（単葉のコピー、集合転写、合冊される他のテキストとの関係など）があげられる。伝統的な文書形式学は、これらを偽文書判定や史料刊行の基礎作業とみなしていたが、現在の関心はより広範にわたっている。この点で重要なのは、カルチュレールに対する認識の刷新である。従来、便利ではあるが信頼性が低いテキスト伝来の一様式以上の関心が寄せられなかったこの「史料類型」は、現在、世界と過去の積極的・意識的な再構成事業とみなされ、多様な関心の十字路に位置するに至った。しかしながら、文書情報の利用と管理という意味では、他にも重要な問題は多い。たとえば、文書伝来数が極度に少ない中世初期をのぞいて、従来必ずしも大きな関心が寄せられなかった書式集は、過去の実例集として、中世末期について膨大な伝来量を誇っている。重要なのは、これらは、厳密な意味での文書作成のためのマニュアルというよりも、文書を通しての法教育書として編まれ、流布したらしいという点である。

しかしながら、管理・業務系資料と接する問題群を提示するものとして、いわゆる「登記」についての諸問題は特別な重要性を持つ。当局が管理する「原簿」という観念が中世に存在したかどうかという疑義はいまはにおいても、ある時期から、発給文書の控えをとる慣習が、王や教皇、さらには都市をはじめとする一部の権威（法的効力の保証者）のもとで普及したという事実がある。最近の研究で、これは当局側の統治テクノロジー強化というよりもむしろ、受益者側からの要請への対処との見方が示されているように、「登記」が社会的な価値を持ったとすれば、この問題は、文書の伝来だけではなく（アーカイヴズという把握）、生成という次元でも考慮せねばならない可能性がある。

最後に、コピーや編纂という領域では、極端な利用という意味で偽文書作成（偽文書作成には、「あるべき」文書に関する体系的な知識が前提となる）や、広義の歴史編纂事業との関わりという問題群がある。ここでは、文書（情報）は、必ずしも写されるのではなく、場合によっては断片化や変容を受けて、異なるコンテキストのもとに再配置されることになる。

文書（情報）の他への利用は、その前提として文書の読解が必須であり、その処理過程こそがアーカイヴズ化である。文書管理は、物理的なモノ管理と、管理のための情報管理からなるが、中世末期から近世を通じて、さまざまな試行錯誤が続けられたことがさまざまな研究から分かっている。ここでは、現用文書と古文書（アーカイヴズ）を峻別して、

後者のみに関心を限定することは生産的な議論ではなく、文書の作成から消滅までの全段階を包括的にとらえる新しいアーカイヴズ観が必要である（フランスのアーカイヴズ学では、レコードとアーカイヴズの区別がなく、原局で生成した段階からすべてアーカイヴズとして一括され、その処理に関しても、文書管理局の関与が法制化されている）。

具体的な検討課題としては、どのような情報が（資料群の認識、選択）、どこに（場所、組織、管理者）、どのように（分類、建物や収納具、目録等の作成）保存・管理されるのかが問題となる。このような細部は、一方で、情報処理テクノロジーの歴史を表現するだけではなく、他方では、過去の実務情報と権力との関係や、過去意識と集団アイデンティティ醸成等の諸問題にも直接連なるものといえる。

3. 文書伝来の諸問題

最後に、文書伝来への新たな関心があらためて提起する諸問題を概観して、本稿を終えたい。

「伝来」という現象が、必然的に歴史的な性格を帯びる「操作」であることの認識がよまった結果、歴史家は、従来以上に、「現在伝来する史料（情報）の評価」の問題に切実に直面しているといえる。古典的な史料学は、「伝来する材料から、伝来しない材料を推測する」作業を積み重ねてきた一方（知識の体系化を前提として、史料情報の個別の欠陥を、ジグゾーパズルのピースのように埋めていく作業）、「沈黙からの *ex nihilo*」推論は厳にいさめられていた。

しかしながら、特定の史料類型、あるいは史料群自体が「体系的に」失われている場合、既存の方法論では限界があることは明らかであり、歴史家の史料認識の前提となる知識の体系の射程を根本的に再考せねばならない。たとえば、特定の史料（群）の代表性問題は、個々の史料証言の妥当性という次元（ばかりで）はなく、およそ存在し得た他の史料類型（群）との関係で考察せねばならない。この際、一方では、あるテキストの生成を推定させるテキスト環境、すなわち、プレ=テキスト、メタ=テキストなどの状況が重要な示唆を与えるはずであり、他方では、管理や廃棄自体に関する個別研究や、その体系化が望まれる。具体的には、モノや書式などをめぐる形而下的要素と、意味や重要性などの価値のあり方を問う広義の文化・思想研究の双方が必要なのである。

おわりに

もっぱら証書系史料を念頭において洗練されてきた古典的文書形式学の方法論の体系は、新たな知識の実証的な蓄積という前提のみならず、「網羅と列挙」というデカルト的認識論によるという意味でも、典型的な近代の知という位置づけを与えられる。「独自の歴史像の構築」を標榜する「ポスト=モダン」にあっては、このような知の体系はもはや用済みで、「役に立たない」のであろうか。

知識の体系化と個々の現象の位置づけという、基本的には「比較の視座」という関係論

に立脚しながら、モノ研究の洗練に代表される批判技術の洗練や、受容をキーワードとする関心の射程の拡大を続ける文書形式学は、「制御された想像力」という「文明の技法」としての有効性を、いまだ失ってはいないと思われる。

参考文献（筆者の手になる二つの論考に共通の文献目録である。恣意的な選択によるものだが、本文の内容を出発点に読者の参照を促す出発点としてお考えいただきたい）

1. 全般、研究動向

- BARRET, S., Eléments d'institutionnalité dans les actes originaux du "fonds de Cluny" de la Bibliothèque nationale de France (Xe-XIe siècles), dans *Die Bettelorden im Aufbau. Beiträge zu Institutionalisierungsprozessen im Mittelalterlichen Religiosentum*, hg. von G. MELVILLE, Münster, 1999, pp. 557-601.
- BAUTIER, R.-H., Leçon d'ouverture du cours de diplomatique à l'Ecole des chartes (20 octobre 1961), dans *Bibliothèque de l'Ecole des Chartes*, 119, 1962, pp. 194-225.
- BAUTIER, R.-H., La commission internationale de diplomatique, dans *Bibliothèque de l'Ecole des Chartes*, 129, 1971, pp. 421-425.
- BAUTIER, R.-H., Propositions méthodologiques pour la Diplomatique du Bas Moyen Age et des débuts des temps modernes, dans *Landesherrliche Kanzleien im Spätmittelalter. Referate zum VI. Internationalen Kongreß für Diplomatie, München 1983*, hg. von G. SILAGI, München, 1984, pp. 49-60.
- BAUTIER, R.-H., Les orientations de la diplomatique en Europe depuis la fin de la seconde guerre mondiale, dans *Cento anni di cammino. Scuola vaticana di paleografia, diplomatica e archivistica (1884-1984). Atti dell'amanifestazioni per il Centenario della Scuola con documentazione relativa alla sua storia*, éd. par T. NATALINI, Città del Vaticano, 1986, pp. 101-152.
- BEDOS-REZAK, B., Diplomatic Sources and Medieval Documentary Practices: An Essay in Interpretive Methodology, in *The Past and Future of Medieval Studies*, ed. by J. VAN ENDEN, Notre Dame/London, 1994, pp. 362-382.
- BOYLE, L. B., Diplomatics, in *Medieval Studies. An Introduction*, ed. by J. M. POWELL, Syracuse, 1992, pp. 82-113.
- BRESSLAU, H., *Handbuch der urkundenlehre für Deutschland und Italien*, Leipzig, 1912-31.
- CARCEL ORTI, M. M., éd., *Vocabulaire international de la diplomatique*, Valencia, 1997.
- CLANCHY, M. T., *From Memory to Written Record, England 1066-1307*, Oxford/Cambridge, Mass., 1979; 2nd edition, 1993.

- DE BOUARD, A., *Manuel de diplomatie française et pontificale. t. I. La diplomatie générale (1929); t. II. L'acte privé (1948)*, Paris, 1929/48, 2 vol.
- DUMAS, A., La diplomatie et la forme des actes, dans *Le Moyen Age*, 42, 1932, pp. 5-31.
- DUMAS, A., Etude sur le classement des formes des actes, dans *Le Moyen Age*, 43, 1933, pp. 81-97, 145-182; 44, 1934, pp. 17-41.
- ESCH, A., Chance et hasard de transmission. Le problème de la représentativité et de la déformation de la transmission historique, dans *Les tendances actuelles de l'histoire du Moyen Age en France en Allemagne. Actes des colloques de Sèvres (1997) et Göttingen (1998) organisés par le C.N.R.S. et le Max-Planck-Institut für Geschichte*, éd. par J.-C. SCHMITT et O. G. OEXLE, Paris, 2003, pp. 15-29.
- FAVIER, J., *Les archives*, Paris, 1958; 4e éd., 1985.
- FAVIER, J., éd., *La pratique archivistique française*, Paris, 1993.
- FICHTENAU, H., La situation actuelle des études de diplomatie en Autriche, dans *Bibliothèque de l'Ecole des Chartes*, 119, 1962, pp. 5-20.
- GENICOT, L., *Les actes publics*, Turnhout, 1972.
- GIRY, A., *Manuel de diplomatie*, Paris, 1894.
- GUYOTJEANNIN, O., Le vocabulaire de la diplomatie en latin médiéval, dans *Vocabulaire du livre et de l'écriture au Moyen Age (Table ronde, Paris, 24-26 septembre 1987)*, éd. par O. WEIJERS, Turnhout, 1989, pp. 120-34.
- GUYOTJEANNIN, O., La diplomatie médiévale et l'élargissement de son champ, dans *La Gazette des archives*, 172, 1996/97, pp. 12-18.
- GUYOTJEANNIN, O., éd., *Conseils pour l'édition des textes médiévaux, fasc. II: Actes et documents d'archives*, Paris, 2001.
- GUYOTJEANNIN, O., La diplomatie en France, dans *Archiv für Diplomatik*, 52, 2006, pp. 479-491.
- GUYOTJEANNIN, O., PYCKE, J. et TOCK, B.-M., *Diplomatie médiévale*, Turnhout, 1993; 3e éd. 2007.
- GUYOTJEANNIN, O. et MORELLE, L., Tradition et réception de l'acte médiéval: Jalons pour un bilan des recherches, dans *Archiv für Diplomatik*, 53, 2007, pp. 367-403.
- PREVENIER, W., *La Commission internationale de diplomatie, 1965-2000, présentée à l'occasion du XIXe Congrès international des Sciences historiques (Oslo, 6-13 août 2000)*, Turnhout, 2000.
- TESSIER, G., *La diplomatie*, Paris, 1952; 3e éd., 1966.
- TESSIER, G., *Diplomatie royale française*, Paris, 1962.
- TOUSTAIN, D. et TASSIN, D., *Nouveau Traité de Diplomatie*, Paris, 1750/1765, 6 vol.

VON BRANDT, A., *Werkzeug der Historikers. Eine Einführung in die Historischen Hilfswissenschaften*, Stuttgart/Berlin/Köln, 1958; 13. Aufl., 1992.

DE WAILLY, N., *Elements de Paléographie*, Paris, 1838, 2 vol.

2. 各論

Manuel d'archivistique, Paris, 1970; réédition, 1991.

Fälschungen im Mittelalter. Internationaler Kongreß der Monumenta Germaniae Historica, München, 16.-19. September 1986. Teil I: Kongreßdaten und Festvorträge. Literatur und Fälschung. Teil II: Gefälschte Rechtstexte. Der bestrafte Fälscher. Teil III: Diplomatische Fälschungen (I). Teil IV: Diplomatische Fälschungen (II). Teil V: Fingierte Briefe. Frömmigkeit und Fälschung. Realienfälschungen. Teil VI: Register (1990), Hannover, 1988, 6 vol.

ANHEIM, E. et PONCET, O., Fabrique des archives, fabrique de l'histoire, dans *Revue de Synthèse*, 5e série, année 2004, 2004, pp. 1-14.

BARRET, S., *La mémoire et l'écrit: l'abbaye de Cluny et ses archives (Xe-XVIIIe siècle)*, Münster, 2004.

BARTHELEMY, D., Une crise de l'écrit? Observations sur des actes de Saint-Aubin d'Angers (XIe siècle), dans *Pratiques de l'écrit documentaire au XIe siècle (t. 155 de Bibliothèque de l'Ecole des Chartes, 1997)*, 1997, pp. 95-117.

BISCHOFF, F. M., *Urkundenformate im Mittelalter. Große, Format und Proportionen von Papsturkunden in Zeiten expandierender Schriftlichkeit (11.-13. Jahrhundert)*, Marburg an der Lahn, 1996.

BOURGAIN, P. et DEROLEZ, A., La conservation des manuscrits et des archives au Moyen Age. Actes du XIe colloque du Comité international de paléographie latine, octobre 1995, dans *Scriptorium*, 50, fasc. 2, 1996,

BRITNELL, R., ed., *Pragmatic Literacy. East and West, 1200-1330*, Woodbridge, 1997.

BROWN, W., When documents are destroyed or lost: lay people and archives in the Early Middle Ages, in *Early Medieval Europe*, 11, 2002, pp. 337-366.

BROWN, W., Charters as weapons. On the role played by early medieval dispute records in the disputes they record, in *Journal of Medieval History*, 28, 2002, pp. 227-248.

CHASTANG, P., *Lire, écrire, transcrire. Le travail des rédacteurs de cartulaires en Bas-Languedoc (XIe-XIIIe siècles)*, Paris, 2001.

CHASTANG, P., Cartulaires, cartularisation et scripturalité médiévale: la structuration d'un nouveau champ de recherche, dans *Cahiers de civilisation médiévale*, 49, 2006, pp. 21-32.

CONTAMINE, P., La mémoire de l'Etat: les archives de la Chambre des comptes du roi de France à Paris au XVe siècle, dans *Media in Francia, recueil de mélanges offerts à K.-F. WERNER*,

- Maulévrier, 1989, pp.85-100; repr. dans ID., *Des pouvoirs en France, 1300/1500*, Paris, 1992, pp. 237-250.
- DAVIES, W. and FOURACRE, P., ed., *The Settlement of Disputes in Early Medieval Europe*, Cambridge, 1986.
- DAVIES, W. and FOURACRE, P., ed., *Property and Power in the Early Middle Ages*, Cambridge, 1995.
- DECLERCQ, G., Le classement des chartiers ecclésiastiques en Flandre au Moyen Age, dans *Scriptorium (Actes du XIe Colloque du comité international de paléographie latine, 1995)*, 50, 1996, pp. 331-344.
- DECLERCQ, G., Originals and Cartularies: The Organization of Archival Memory (Ninth Eleventh Century), in *Charters and the Uses of the Written Word in Medieval Society*, ed. by K. HEIDECKER, Turnhout, 2000, pp.147-170.
- DELMAS, B. et NOUGARET, C., éd., *Archives et nations dans l'Europe du XIXe siècle. Actes du colloque organisé par l'Ecole nationale des chartes (Paris, 27-28 avril 2001)*, Paris, 2004.
- DELSALLE, P., éd., *La recherche historique en archives du Moyen Age*, Paris, 1995.
- DELSALLE, P., *Lexique des archives et documents historiques*, Paris, 1996.
- DUCHEIN, M., Le respect des fonds en archivistique. Principes théoriques et problèmes pratiques, dans *La Gazette des archives*, 97, 1977, pp. 71-96.
- DUFOUR, J., *La bibliothèque et le scriptorium de Moissac*, Paris/Genève, 1972.
- FAVIER, L., *La mémoire de l'Etat. Histoire des Archives nationales*, Paris, 2004.
- FIANU, K. et GUTH, D. J., éd., *Ecrit et pouvoir dans les chancelleries médiévales: espace français, espace anglais. Actes du colloque international de Montréal, 7-9 septembre 1995*, Louvain-la-Neuve, 1997.
- FICHTENAU, H., *Arenga. spätantike und Mittelalter im Spiegel von Urkundenformeln*, Graz/Köln, 1957.
- FRENZ, T., *I documenti pontifici nel medioevo e nell'età moderna*, prima ed., 1989, trad. de ID., *Papsturkunden des Mittelalters und der Neuzeit*, Stuttgart, 1986; seconda ed., Città del Vaticano, 1998.
- GASPARRI, F., *L'écriture des actes de Louis VI, Louis VII et Philippe Auguste*, Genève/Paris, 1973.
- GASSE-GRANDJEAN, M.-J. et TOCK, B.-M., éd., *Les actes comme expression du pouvoir au Haut Moyen Age. Actes de la Table Ronde de Nancy, 26-27 novembre 1999*, Turnhout, 2003.
- GERVERS, M., ed., *Dating undated medieval charters*, Rochester, NY, 2000.
- GUYOTJEANNIN, O., MORELLE, L. et PARISSÉ, M., éd., *Pratiques de l'écrit documentaire au XIe siècle (t. 155 de Bibliothèque de l'Ecole des Chartes, 1997)*, Paris, 1997.

- GUYOTJEANNIN, O., MORELLE, L. et PARISSÉ, M., éd., *Les cartulaires. Actes de la Table ronde organisée par l'Ecole nationale des chartes et le G.D.R. 121 du C.N.R.S., Paris, 5-7 décembre 1991*, Paris, 1993.
- HEIDECKER, K., ed., *Charters and the Use of the Written Word in Medieval Society*, Turnhout, 2000.
- HILDESHEIMER, F., *Les Archives de France. Mémoire de l'Histoire*, Paris, 1997.
- HUNDSON, J., L'écrit, les archives et le droit en Angleterre (IXe - XIIe siècle), dans *Revue historique*, CCCXV/1 (637), 2006, pp. 3-35.
- KOSTO, A. J., Laymen, Clerics and Documentary Practices in the early Middle Ages: the Exemple of Catalonia, dans *Speculum*, 80, 2005, pp. 44-74.
- KOSTO, A. J. and WINROTH, A., ed., *Charters, Cartularies, and Archives: The Preservation and Transmission of Documents in the Medieval West. Proceedings of a Colloquium of the Commission Internationale de Diplomatie (Princeton and New York, 16-18 September 1999)*, Toronto, 2002.
- LE BLEVEC, D., éd., *Les cartulaires méridionaux. Actes du colloque organisé à Béziers les 20 et 21 septembre 2002 par le Centre historique de recherches et d'études médiévales sur la Méditerranée occidentale (E.A. 3764, Université Paul-Valéry - Montpellier III)*, Paris, 2006.
- MATTEONI, O., La conservation et le classement des archives dans les chambres des comptes de la principauté bourbonnaise à la fin du Moyen Age, dans *La France des principautés, les Chambres des comptes, XIVe et XVe siècles, actes du colloque de Moulins, 6-8 avril 1995*, éd. par P. CONTAMINE et O. MATTEONI, Paris, 1996, pp. 65-81.
- MCKITTERICK, R., *The Carolingians and the written word*, Cambridge, 1989.
- MCKITTERICK, R., ed., *The Uses of Literacy in Early Mediaeval Europe*, Cambridge, 1990.
- MENANT, F., Les transformations de l'écrit documentaire entre le XIIe et le XIIIe siècle, dans *Ecrire, compter, mesurer. Vers une histoire des rationalités pratiques*, éd. par N. COQUERY, F. MENANT et F. WEBER, Paris, 2006, pp. 33-50.
- MORELLE, L., Histoire et archives vers l'an mil: Une nouvelle «mutation»? , dans *Histoire et Archives*, 3, 1998, pp. 119-141.
- MORELLE, L., Les «actes de pécaires», instruments de transferts patrimoniaux (France du Nord et de l'Est, VIIIe-XIe siècle), dans *Les transferts patrimoniaux en Europe occidentale, VIIIe-Xe siècle (I). Actes de la table ronde de Rome, 6, 7, et 8 mai 1999 (Mélanges de l'Ecole française de Rome, Moyen Age, 111)*, 1999, pp. 607-647.
- MORELLE, L., Original mis au rebut ou acte 'Manqué'? Lecture et critique d'un parchemin mutilé issu de l'abbaye de Saint-Amand (1105), dans *Retour aux sources. Textes, études et documents d'histoire médiévale offerts à Michel Parisse*, Paris, 2003, pp. 179-191.

- MORELLE, L., La main du roi et le nom de Dieu: la validation de l'acte royal selon Hincmar, d'après un passage de son *De divortio*, dans *Foi chrétienne et églises dans la société politique de l'Occident du Haut Moyen Age (IVe-XIIIe siècles)*, éd. par J. HOAREAU-DODINAU et P. TEXIER, Limoges, 2004, pp. 287-318.
- MORELLE, L., Par delà le vrai et le faux. Trois études critiques sur les premiers privilèges pontificaux reçus par l'abbaye de Saint-Bertin (1057-1107), dans *L'acte pontifical et sa critique*, éd. par R. GROSSE, Bonn, 2007, pp. 51-86.
- MORELLE, L., Qu'est-ce qu'un acte original? Quelques remarques sur l'écrit diplomatique des VIIIe-XIIIe siècles (「<文書オリジナル>とはなにか —7-12世紀の文書史料に関するいくつかの指摘—」、『史学』76-2/3、2007年、89-120頁) .
- NOIZET, H., La transmission de la documentation diplomatique de Saint-Martin de Tours antérieur à 1150, dans *Histoire et Archives*, 17, 2005, pp. 7-36.
- PARISSE, M., A propos du traitement automatique des chartes: chronologie du vocabulaire et repérage des actes suspects, dans *La lexicographie du latin médiéval et ses rapports avec les recherches actuelles sur la civilisation du Moyen-Age. Colloque international du C.N.R.S., Paris, 18-21 octobre 1978*, Paris, 1981, pp. 241-249.
- PARISSE, M., Un scribe champenois du XIIe siècle et l'évolution de son écriture, dans *Archiv für Diplomatik*, 29, 1983, pp.229-41.
- PARISSE, M., Remarques sur les chirographes et les chartes-parties antérieurs à 1120 et conservés en France, dans *Archiv für Diplomatik*, 32, 1986, pp. 546-67.
- PARISSE, M., Rassemblement et traitement des actes originaux du haut Moyen Age français, dans *Fotografische Sammlungen mittelalterlicher Urkunden in Europa. Geschichte, Umfang, Aufbau und Verzeichnungs-methoden der wichtigsten Urkundenfotosammlungen, mit Beiträgen zur EDV-Erfassung von Urkunden und Fotodocumenten*, hg. von P. RUCK, Sigmaringen, 1989, pp. 115-121.
- PARISSE, M., Importance et richesse des chartes épiscopales. Les exemples de Metz et de Toul, des origines à 1200, dans *A propos des actes d'évêques. Hommages à L. Fossier*, éd. par M. PARISSE, Nancy, 1991, pp. 19-43.
- PARISSE, M., Une enquête à poursuivre: la spiritualité des nobles au miroir de préambules de leurs chartes, dans *Georges Duby. L'écriture de l'Histoire*, éd. par C. DUHAMEL-AMADO et G. LOBRICHON, Bruxelles, 1996, pp. 307-316.
- PARISSE, M., Croix autographes de souscription dans l'Ouest de la France au XIe siècle, dans *Graphische Symbole in mittelalterlichen Urkunden. Beiträge zur diplomatischen Semiotik*, hg. von P. RUCK, Sigmaringen, 1996, pp. 143-156.

- PARISSE, M., Ecriture et réécriture des chartes: les pancartes aux XIe et XIIe siècles, dans *Pratiques de l'écrit documentaire au XIe siècle (t. 155 de Bibliothèque de l'Ecole des Chartes, 1997)*, 1997, pp. 247-265.
- PARISSE, M., Préambules de chartes, dans *Les prologues médiévaux : actes du Colloque international organisé par l'Academia Belgica et l'Ecole Française de Rome avec le concours de la F.I.D.E.M. (Rome, 26 - 28 mars 1998)*, éd. par J. HAMESSE, Turnhout, 2000, pp. 141-169.
- PARISSE, M., PEGEOT, P. et TOCK, B.-M., éd., *Pancartes monastiques des XIe et XIIe siècles. Table ronde organisée par l'ARTEM, 6 et 7 juillet 1994, Nancy*, Turnhour, 1998.
- POULLE, E., Classement et cotation des chartriers au Moyen Age, dans *Scriptorium (Actes du XIe Colloque du comité international de paléographie latine, Bruxelles, Bibliothèque royale Albert Ier, 19-21 octobre, 1995: La conservation des manuscrits et des archives au Moyen Age)*, 50, 1996, pp. 345-355.
- PREVENIER, W. et DE HEMPTINNE, T., éd., *La diplomatie urbaine en Europe au moyen âge. Actes du congrès de la Commission internationale de Diplomatie, Gand, 25-29 août 1998*, Leuven/Apeldoorn, 2000.
- RABIKASKAS, P., *Diplomatica pontificai (Praelationum lineamenta)*, Editio sexta emendata et aucta, Roma, 1998.
- RUCK, P., hg., *Fotografische Sammlungen mittelalterlicher Urkunden in Europa. Geschichte, Umfang, Aufbau und Verzeichnungsverfahren der wichtigsten Urkundenfotosammlungen, mit Beiträgen zur EDV-Erfassung von Urkunden und Fotodocumenten*, Sigmaringen, 1989.
- RUCK, P., La diplomatie face à la codicologie triomphante, dans *Gazette du livre médiéval*, 17, 1990, pp. 1-7.
- RUCK, P., *Bildberichte vom König. Kanzlerzeichen, königliche Monogramme und das Signet der salischen Dynastie.*, Marburg an der Lahn, 1996.
- RUCK, P., hg., *Graphische Symbole in mittelalterlichen Urkunden. Beiträge zur diplomatischen Semiotik*, Sigmaringen, 1996.
- STIENNON, J., *Etude sur le Chartrier et le Domaine de l'abbaye de Saint-Jacques de Liège (1015-1209)*, Paris, 1951.
- STIENNON, J., Considérations générales sur la bibliothéconomie et l'archivistique médiévales, dans *Scriptorium (XIe Colloque du comité international de paléographie latine, Bruxelles, Bibliothèque royale Albert Ier, 19-21 octobre, 1995: La conservation des manuscrits et des archives au Moyen Age)*, 50, 1996, pp. 229-238.
- TOCK, B.-M., Auteur ou impétrant? Réflexions sur les chartes des évêques d'Arras au XIIe siècle, dans *Bibliothèque de l'Ecole des Chartes*, 149, 1991, pp. 215-48.
- TOCK, B.-M., *Une chancellerie épiscopale au XIIe siècle: Le cas d'Arras*, Louvain-la-Neuve, 1991.

- TOCK, B.-M., L'acte privé en France, VIIe - milieu du Xe siècle, dans *Mélanges de l'Ecole française de Rome, Moyen Age*, 111, 1999, pp. 499-537.
- TOCK, B.-M., éd., *La diplomatie française du Haut Moyen Age. Inventaire des chartes originales antérieures à 1121 conservées en France, t. I. Introduction générale, Album diplomatique, Table chronologique, Table des auteurs, t. II. Table des destinataires, Table des genres diplomatiques, Table des états de la tradition manuscrite, Table des sceaux, Table des chirographes, Table des cotes d'archives ou de bibliothèques*, Turnhout, 2001.
- TOCK, B.-M., La mise en scène des actes en France au Haut Moyen Age, dans *Frühmittelalterliche Studien*, 38, 2004, pp. 287-296.
- TOCK, B.-M., *Scribes, souscripteurs et témoins dans les actes privés en France (VIIe - début XIIIe siècle)*, Turnhout, 2005.
- VULLIEZ, C., L'apprentissage de la rédaction des documents diplomatiques à travers l'ars dictaminis français (et spécialement ligérien) du XIIe siècle, dans *Cancellaria e cultura. Comunicazioni presentate nelle giornate di studio della commissione internazionale de diplomatie, Stoccarda, 29-30 agosto 1985 - XVI Congresso Internazionale di Scienze Storiche*, éd. par G. GUALDO, Città del Vaticano, 1990, pp. 77-95.
- ZIMMERMANN, M., Protocoles et préambules dans les documents catalans du Xe au XIIe siècle: évolution diplomatique et signification spirituelle, dans *Mélanges de la Casa de Velazquez*, 10, 1974, pp. 41-76; 11, 1975, pp. 51-79.
- ZIMMERMANN, M., La datation des documents catalans du IXe au XIIe siècle: un itinéraire politique, dans *Annales du Midi*, 93, 1981, pp. 345-275.
- ZIMMERMANN, M., éd., *Auctor et Auctoritas. Invention et conformisme dans l'écriture médiévale. Actes du colloque de Saint-Quentin-en-Yvelines (14-16 juin 1999)*, Paris, 2001.
- ZIMMERMANN, M., L'histoire médiévale coule-t-elle de source?, présenté dans *La langue des actes. Actes du XIe Congrès international de diplomatie Troyes, jeudi 11-samedi 13 septembre 2003*, consultable sur <http://elec.enc.sorbonne.fr/document189.html#tocto9>